

集

別紙甲号乙号 韓國海州遺跡調査會
 赤己川合衆港官多謀本部より軍医所
 より文を蒙り、了業ありとて、乃て送附せり

三十七百九

河東守令尹長

東門憐人好歌月夕長夜

0005

秘

甲号

韓國臨時派遣隊司令官ニ付ル訓令案

一、貴官ハ韓國臨時派遣隊ヲ指揮シ佐世保東方秋尾川ノ河口東浦附近ニ於テ乗船シ我聯合艦隊ハ掩蔽ニ依リ韓國仁川港ニ廻航直ニ該地ニ上陸スベシ

二、乗船ニ関シテハ佐世保鎮守府司令長官ト協議シ運送船ト艦隊トノ関係ニ就テハ聯合艦隊司令長官ハ指示ニ應ジテ行動スベシ

三、仁川上陸后ハ速カニ京城ニ進入シ該地ヲ占領シ確實ニ保持スルコトヲ努ム可シ

四、貴官ノ軍事の行動ニシテ外交上ニ関係スルモノハ在京城我全權公使ト協議スルヲ要ス

五、韓國駐劄隊ハ臨時派遣隊上陸后ヨリ第一二師團

0006

京城到着迄一時貴官、指揮ニ属セシム

六、聯合艦隊ノ行動仁川港上陸、安全ヲ期スル能ハサル
場合ニ遭遇セハ乙号訓令ヲ開緘ス可シ

七、上陸完了セハ運送艇ヲ行揚陸材料并ニ附屬
人員及台灣陸軍補給本廠ヨリ差遣ノ將校ハ
速カニ寧波ニ向テ帰航セシム可シ

八、貴官ハ而今參謀總長ノ区處ヲ受ク可シ

本訓令ハ師團長計畫實施ノ電報ヲ受領シテ

以後自ラ開緘シテ臨時派遣隊司令官ニ交附セ

シム

但シ師團長ハ別ニ甲乙兩号訓令ヲ再々送付ス

參謀總長

0007

秘

乙号

韓国臨時汎遣隊司令官ニ奉ル訓令案

一、貴官ハ韓国仁川港上陸シ企圖ヲ放棄セザルヲ得ガルハ
牙山水營即チ蛇洞灣(淡水海灣ノ入口東側^{海國})若クハ
庇仁灣即チ馬梁洞(蛇洞灣ノ南方ニシテ海國第十六号ニ在リ)
ニ上陸シ陸路京城ニ行進ス可シ其行軍計畫ハ大概ニ略
圖ニ示スカ如シ

二、貴官ノ任務ハ甲号訓令ノ通

三、行軍途中、給養ハ成ルベク地方物資ニ依ルヲ勉ムベシ
四、情況上到底第一項ノ上陸ヲ企圖スル能ハサル時ハ韓国南
岸露梁津(鎮海灣ノ西方)ニ廻航上陸シテ命ヲ待ツベシ
五、上陸后運送船ヲ行揚陸材料并ニ附属人員及基
溝陸軍補給廠ヨリ差遣セシ特校ハ速カニ序政ニ向テ帰航

0008

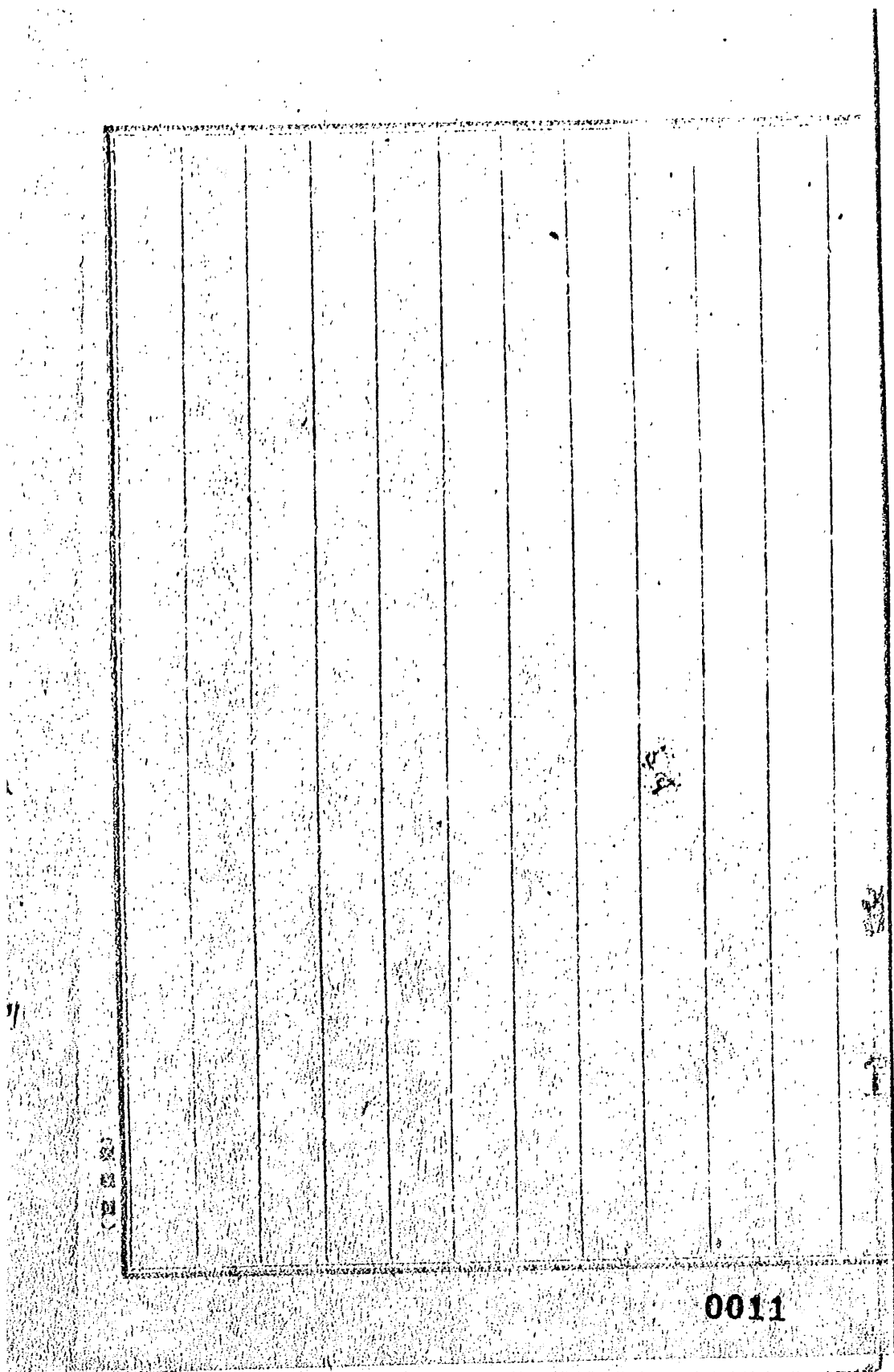
セシムバシ

本訓令ハ甲号訓令ト共ニ封緘、依師團長ヨリ司
令官ニ交附セシム

参謀総長

三三三三

0009



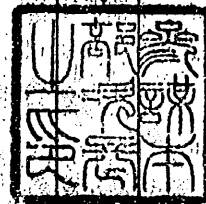
機密

參謀本部 臨第二九九號第二

明治三十七年二月二日

參謀本部次長 男爵兒玉源太郎

海軍令部次長 伊集院五郎殿



二月一日御通知ノ趣了奉陳者、コロシ
着シ牙山ニ上陸スルモノトスバ陸路四日
行軍ヲ爲サレ可ラス然レモコロシハ運搬
機材ヲ有セサル軍隊ニ候間萬々止ム
ヲ得サレ場人石ノ外ハ仁川ニ上陸爲政度
リ將又航海上陸并ニ行軍本日數ヲ累
加スル時ハ佐世保出發後一週間ニシテ始
テ京城達スルヲ得ル事、リ得者其間京

0012

城ノ情况如何、変遷スルヤモ測ラレズ爲メ
 機宜ヲ失スルノ恐シモ有テ幸多少ノ危険
 免レ仁川、上陸處數度希シキ内此
 旨意ヲ東卿司令長官ニ申訓人々お成
 リ推察存心以テ取會ナリ

参議本部

0013

極秘

大本
營陸
謀臨第
四
號第一

解馬松之作戦・國之別動隊
ノ未決即先手ノ近及ノ遂行也

明治三十七年二月七日

参謀長官伊東祐兵



海軍各隊長等伊東祐兵

0014

目録

一 韓國駐在作戦計画 (甲 露外)

一 各團隊乗取上陸日次表

一 船舶運航表

一 甲 露外 場合に於て第十三師團前進状況

一 覽表

一 第十三師團長ニ對シタル訓令

參謀本部



韓國ニ於ケル
作戰計畫
（甲號外）
附表ヲ添ヘズ



0017

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0018

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

韓国ニ於ケル作戰計畫(甲號外)

日露兩國間ノ事務局相調和スル能ハス終ニ作戰スルノ止ム
ヲ得サルニ際會セハ先ツ速ニ一師團ノ兵力ヲ差遣シテ京
城以南ノ占領ヲ確定ニスル爲メ作戰ヲ計畫ス其要領尤
ノ如シ

要領

- イ、先遣徵發隊
- ロ、使用スヘキ諸団隊
- ハ、大本營
- ニ、戦闘序列
- ホ、内地ニ於ケル集合地及編成地
- ヘ、乗船地及乗船
- ト、上陸地及上陸順序

六、前進路

リ、前進順序及梯団区分

又、前進中ニ於ケル給養

ル、前進中ニ於ケル衛生

ヲ、韓國ニ於ケル集合地

ハ、道路改修工事要領

カ、兵站設置ニ関スル要領

ミ、集積場

タ、本國ニ於ケル要塞ノ戦備

イ、先遣微分隊

一、先遣微分隊ハ兵站設置準備ニ任スルモノニシテ動員下

令ニ先ケル機會ヲ利用シテ出發スルセシメサル可カラス蓋シ其

出發早キニ隨テ諸般ノ準備ニ有利ナルモノトス而シテ

以徵發隊ハ附表第一ニ準シ上陸点ニ於テ通訳官ノ分
配ヲモテナルモノトス

先遣徵發隊ノ業務並其編成ハ別ニ定クル所ニ據ル

ロ 使用スヘキ諸団隊

一 第十一師団

二 第十一師団ニ於テ準備スル兵站監部員及兵站司令部

二十個(第十一師団ニ於テ準備シアルモノヲ含リ)

三 第六、第十一師団後備隊

四 兵站第六大隊及第十四師団ニ於テ動員スヘキ兵站電信輜

重

五 第十一師団補助輸車隊

(四集スヘキ補助輸車ノ数及其区分並徵發工夫ノ負教

ハ附表第二ノ如シ)

ハ 大本營

一 大本營ハ東京ニ在ルモノト想定ス

二 戦闘序列

一 第十二師団ノ戦闘序列ハ附表第三ノ如シ

ホ、内地ニ於テ集合地及偏成地

一 第十二師団ノ主力ハ長崎附近ニ集合ス

二 兵站並部ハ小倉ニ於テ偏成セラル

三 工兵第六大隊及兵站諸部隊、兵站並ニ属スル後備諸

隊ハ上陸地ニ於テ兵站並ノ全下ニ入ルモノトス

四 韓国駐劄隊ハ第十二師団長ノ指揮ニ属ス其時期ハ

臨機之ヲ定ム

五 第十二師団ノ集合ノ為メ鉄道輸送ノ計画ハ附表第

四ノ如シ

一、乗船地及乗船

一、第十二師団大部及工兵第百六十六大隊ハ長崎ニ於テ第百十二師団ノ一部、後備歩兵第百四十七聯隊第百一大隊及兵站司令部六個兵站並部ハ門司、兵站司令部十五個ハ岸島ニ於テ第百四師団ニ於テ準備スル兵站電信輜重ハ大坂ニ於テ乗船ス

二、各部隊ノ船舶輸送順序ハ附表第百五ノ如シ

ト、上陸地及上陸順序

一、軍隊ノ主ナル上陸地ハ馬山浦ニシテ露梁津附近ノ錨地ヲ以テ補助上陸地トス

二、師団司令部及歩兵第百十二旅団、騎兵第百十二聯隊、工兵第百十二大隊(中隊缺)、衛生隊及糧食一縱列ハ露梁津ニ其他ハ鎭テ馬山浦ニ上陸ス

三 各部隊乗船上陸順序表ハ附表第六ノ如シ

ハ 前進路

一 騎兵第十二聯隊ハ独立シテ南路ヲ先行シ師団工兵ヲ

先行セシメテ馬山浦ヨリ南路ヲ前進ス

二 前進路トシテ採用シ得ベキ道路ハ中路・西路・南路ノ

三道アリト雖モ中路・西路ハ道路頗ル峻急ニシテ駟馬

ノ通行タモ許サレル処アリテ後隊ノ行進路ニ使用スルコ

ト難シ強テ之ヲ使用セントスルハ改修工事ノ爲メ却テ行

進ヲ遅緩セシムル恐アリ故ニ軍隊ハ唯一ノ南路ヲ一縱

隊トナリテ前進スルノ外良策ナクハツシ

リ 前進順序及師団区分

一 騎兵聯隊ハ連ニ京城ニ達スル爲メ勅員完結セハ所屬

師団ニ關係ナク直ニ輸送セラレ南路ヲ獨立シテ行進ス

其行進計畫ハ附表第八ノ如シ

二 第十三師團ハ速ニ京城ヲ占領スル目的ヲ以テ南路ヲ行進ス其梯團區分註行軍計畫ハ附表第七及第八ノ如シ

又、前進中ニ於テ給養

一 先行スル騎兵聯隊ハ總テ地方物資ニ依リ自活シテ行進セサルヘカラス其他ハ倉庫給養ヲ受ケシム

二 前進中給養品ハ先遣徵發隊ニ依テ徵集セラル地
方物資ヲ使用スルモノトス

三 第十三師團ノ各梯團ハ大行李ノ外各自糧食搬列ノ一部
(二日乃至三日分)ヲ直後ニ跟隨セシメ倉庫所在地ニ於テ
補充ヲ受ケシメ中間ノ宿營地ニ於テハ其増行糧秣ヲ
用ヒシタルモノトス

四 行進中ノ宿營ハ主トシテ塙世帯天幕ニ依ルモノトス

ル前進中ニ於ケル衛生

一 南路ニ兵站病院、京城ニ合宿病院ヲ設置スルヲ要ス

ヲ、韓国ニ於ケル集合地

一 第十三師団ハ京城及其附近ニ集合ス

二 騎兵聯隊ハ臨津江以北ニ於テ教習戒ニ従事セシム

ヲ、道路改修工事要領

一 道路ノ改修ハ先ツ南路ヲ驛馬ノ通シ得ル如ク第十三師団

ヲシテ自ラ改修セシメ軍隊通過後兵站業務ノ為メニハ

工兵第六大隊及所要ノ補助輸平、韓人夫並徴發工夫

ヲ使用シテ漸次ニ修理ヲ加ヘ遂ニ野跑ヲモ通過シ得

ル如クスルヲ要ス

カ、兵站設置ニ関スル要領

一 韓国内地ノ物資統計ニ徴シ京城ニ一ヶ月後優ニ個

師団ニテ月分ノ糧食ヲ集積スルヲ得可シ之カ爲メニ先
ツ京城附近及仁川ノ物資ヲ京城ニ集積セシムルヲ要ス然
ルトキハ其集積シタル物資ヲ以テ京城到着後爾後ノ追
送品到着迄軍隊ヲ培養スルヲ得

二
南路地方ハ韓國中最モ富裕ナル地方ナリト雖モ其地方
物資ハ所々ニ偏存スルヲ以テ銳意彼是地方ノ物資ヲ
轉送シテ互ニ補足スルヲ要ス然ルトキハ第十二師団ノ行軍
ニ要スル糧秣ハ充分地方物資ニ依頼シ得ルノ見込アリ
而シテ糧秣蒐集ノ程度ハ時日ヲ費スト共ニ其量ヲ増
加スルモノナルカ故ニ第十二師団京城到着後二ヶ月後ニ
ハ連統師団ヲ培養シ得ヘキ地方物資ヲ徵集スルコト
ヲ得ヘシ而シテ糧秣ノ輸送ニ車ヲ韓人夫ヲ用ヒ駄牛
ヲ以テ之ヲ補足スルモノトス

三 京城以南、物資中未ハ一個師団教ケ月間培養シテ尚ホ
餘アリト雖モ独リ馬糧ノミハ追送ニ依頼セサルヘカラス然
ルニ以馬糧ヲ馬山若クハ河東ヨリ追送スルハ實ニ至難ノ
コトニ屬スルカ故ニ概會ヲ利用シテ豫メ多量ノ馬糧
一師団ニケ月分ヲ仁川ニ輸送シ之ヲ京城ニ貯藏シ置
クヲ要ス然ルトキハ大ニ兵站業務ヲ省略スルコトヲ得可シ
此ノ如クスシハ第十三師団ハ追送ニ依頼セスシテ教ケ月ヲ
支フルコトヲ得ヘシ

四 然リト雖モ韓國ノ富原ト稱スル金羅道及其附近ニ於テ
先遣徵發隊ノ蒐集セシ地方物資ヲ京釜鐵道端末
迄轉送スル爲メ公州天安間成ル可ク速ニ兵站輸送業
務ヲ開始セサルヘカラス其他沿道ノ兵站司令部ハ單ニ第
十三師団ノ宿營準備患者收容等ニ過キサルヲ以テ軍

隊通過後ハ其中若干ヲ撤收シテ之ヲ京城ニ集合セシムルヲ要ス

五、南路上河東ニ蟠津江ヲ利用シテ海路ヨリ連絡シ得ルカ、故ニ南路ヨリ追送スル軍需品ハ此所ニ集積シ補充人馬ハ露梁津ヨリ上陸セシムルヲ便トス而シテ彈藥輸送ニ関スル計畫ハ附表第十六ノ如シ

六、京釜中路ニ我電線ノ存在スルモノアリト虽モ尙ホ不慮ノ場合ヲ顧慮シテ南路中晋州、金州及露梁津間ノ連絡ヲ確實ナラシムルヲ要ス之カ爲メ先ツ兵站電信隊ヲシテ成ルヘク速ニ電線ヲ架設セシムルニ後進信者ヨリ所要ノ要員ヲ徵集シテ之ト交代セシムルヲ可ラス其電信架設ノ計畫及此線路ヲ韓國ノ固有線ニ連絡シタル場合ニ於テ通信ニ要スル人員ハ附表第九ノ如シ

七

兵站守備隊ハ先ツ後備歩兵一大隊ヲ使用ス其守備隊
ハ独リ兵站線ノ守備ニ任セシムルノミナラス韓人夫ノ監視
等ニ任セシムルヲ要ス

八

電線ヲ架設シ及南路ヲ漸次ニ改修スルハ兵站並ノ責
任トス

兵站勤務ニ要スル諸物品及其數量ハ附表第十

ノ如シ

兵站司令部配置順序及兵站設置略圖ハ附表

第十ノ如シ

ヨ、集積場

一

集積諸廠ハ之ヲ宇島ニ設ケ其支廠ヲ門司ニ置ク

但シ野戦兵器本廠ハ之ヲ門司ニ置キ同地兵器支廠

ヲシテ兼攝セシム

又、本國ニ於ケル要塞ノ戦備

一、本國ノ戦計ニ於テハ、作戦方面敵我位置ノ關係

上テ、諸要塞ハ、動員シテ戦備ヲナスヲ要ス。

對馬、函館、澎湖島

本戰備

佐世保、長崎。

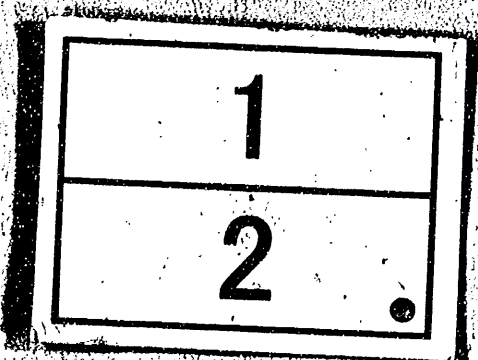
準戰備

但し準戰備ヲ為ス要塞ノ工事ニ関シテハ、別ニ命令シ
下ス又藝伎隊要塞ヲ除ク外他ノ要塞ハ、警急配備
ヲ為スモノトス

前記諸要塞ノ戦闘序列ハ附表第十二乃至第十五
ノ如シ

0031

分割撮影ターゲット

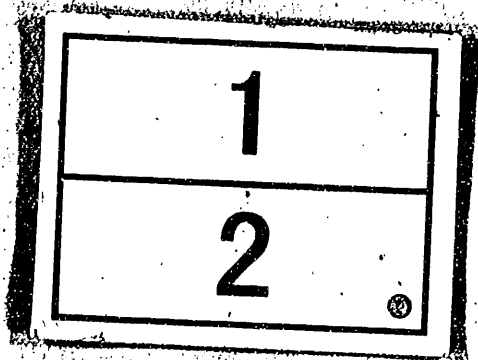
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

陸

0033
0034

[illegible]

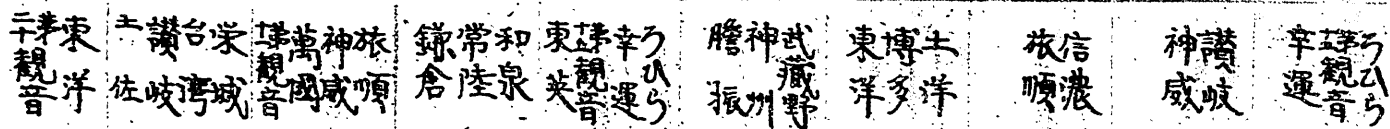
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0085
0036

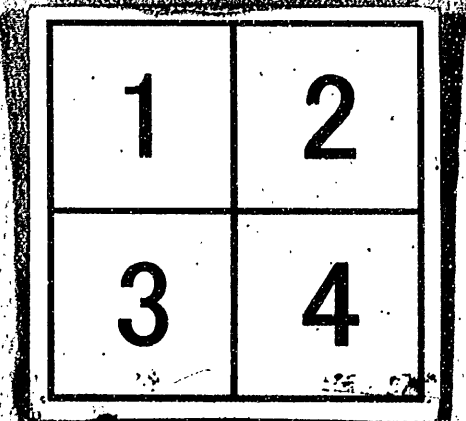
膽振

日阿安
東波藝



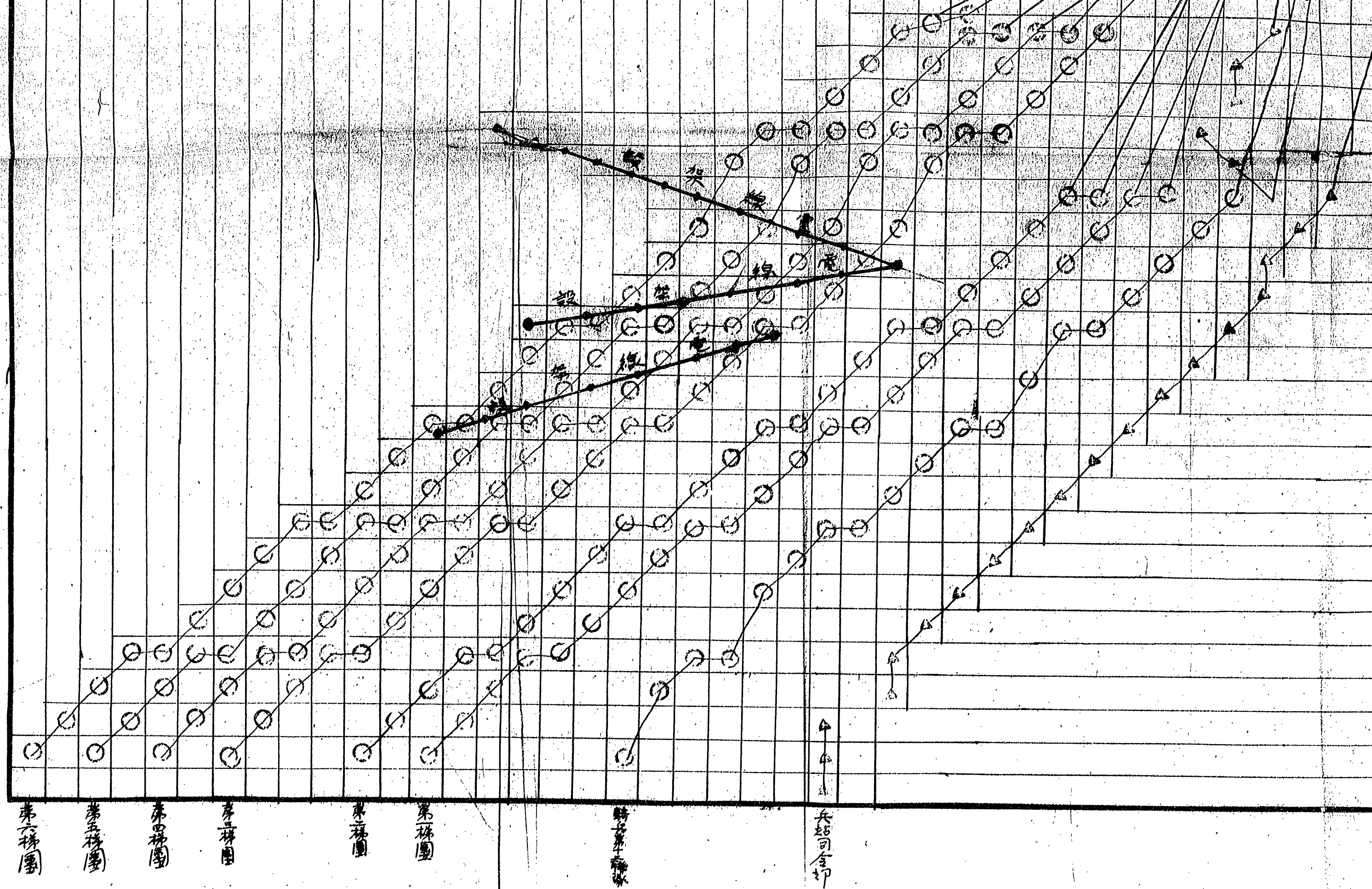
和泉 鑲倉 孟賈 名灣 丹波 津觀寺 高橋 羽後 勝山 安藝 阿波 日東

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

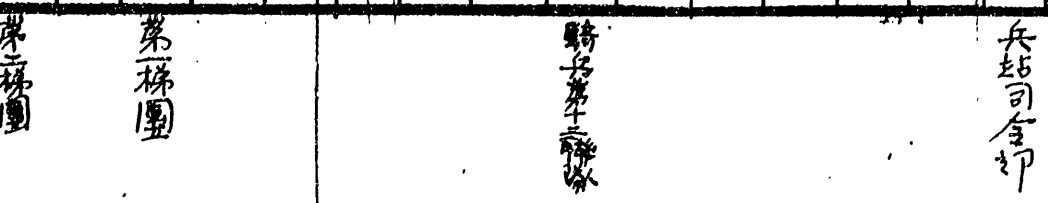
甲、號外場合ニ於テ第十二師團輸送業務一覽

日次		鉄道輸送	船舶輸送
曆日	動員日次	乗船地	部隊
一	一	小倉及福岡より 長崎三隻	浦山 海城
二	二		半里四 里二 里一 里十 半里六 半里四 半里四
三	三		
四	四		
五	五	半品兵部司令部	
六	六		
七	七	第一梯團	
八	八	第二梯團	
九	九	第三梯團	
一〇	一〇	長崎第一梯團	
一一	一一	長崎第二梯團	
一二	一二	長崎第三梯團	
一三	一三	長崎第四梯團	
一四	一四	長崎第五梯團	
一五	一五	門司第六梯團	
一六	一六	第六師團八師團輸送 為メト小倉及福岡より 徒歩行軍ヲ要ス	
一七	一七		
一八	一八		
一九	一九		
二〇	二〇		
二一	二一		
二二	二二		
二三	二三		
二四	二四		
二五	二五		
二六	二六		
二七	二七		
二八	二八		
二九	二九		
三〇	三〇		
三一	三一		
三二	三二		
三三	三三		
三四	三四		
三五	三五		



△ 兵站司令部業務開始の表

○軍務編纂より表入



秘

第十二師團長ニ与ヘタル訓令

- 一、其師團ヲ韓國ヘ差遣スル目的ハ先ツ韓國京城及其以南ノ軍事の台領ヲ為スニ在リ
- 二、貴官ハ部下團隊ノ動員完結セバ別冊計畫書ニ準シ韓國京城ヲ台領スヘシ
- 但別冊計畫書ハ出兵ニ関スル諸計畫ノ指導ニ過キサルヲ以テ貴官ハ鐵道及船舶ノ輸送ニ影響セザル範圍内ニ於テ便宜取扱変更ヲ加フルモ妨ケナシ
- 三、外交ニ関スル事項ニ就テハ京城駐劄リテ云使ト協議スルヲ要ス
- 四、咸鏡道方面ニ對シ特ニ警戒スルヲ要ス

五、韓國駐劄隊、其師團、京城到着後
作戰ニ関シテハ貴官、指揮ニ属ス然レトモ
其人事及經理ハ依然駐劄隊司令官、
管轄ニ属スルモノトス
六、臨時汎遣隊、其師團京城到着、時
所屬隊ニ復歸スルモノトス

0040-3

大本謀臨第 二 號第一

明治三十七年二月十日

參謀總長侯爵大山

海軍大臣 山本 權次郎 殿

公体上奏文并、訓令、通達、裁
可、お世、金、牛、及、移、時、力

極秘

第一班



參謀本部

0041

光輝 上巻又
 川 降近て 軍隊ヲ 上巻て 降る
 玉りえん 降る 分十二 降る
 東て 降近て 降近て 降近て
 韓 國 降近て 降近て 降近て
 外 降近て 降近て 降近て
 奉 降近て 降近て 降近て
 改 降近て 降近て 降近て
 一 降近て 降近て 降近て

0042

馬ノ江川港ニ改ム

一、霞海津及馬山浦ヨリ、馬嶺

ニ至リ、河ノ諸設備ヨリ、馬ノ中

止ス

三、江川ヨリ、馬嶺、又、馬ノ中

ニ至リ、河ノ諸設備ヨリ、馬ノ中

ニ至リ、河ノ諸設備ヨリ、馬ノ中

ニ至リ、河ノ諸設備ヨリ、馬ノ中

任ス

0043

第十二師団長ニ發スル訓令

一 海戦ノ結果韓國仁川附近ニ軍隊ヲ上陸シ得ルニ至リ

二 貴官ハ部下諸用隊ノ動員完結セハ門司、長崎港ヲ經テ韓國仁川ニ上陸シ鉄道輸送、徒步行軍ヲ併用シテ韓國京城附近ニ侵入ス可シ

三 前キニ文附セラレタル計畫書中上陸後ノ行軍ニ関スル計畫ハ之ヲ廢止シ京釜南路上ノ設備ニ関スル計畫實施ハ當分中止ス

四 仁川上陸及仁川京城間ノ運動計畫ニ関シテノ貴

0044

官ハ今ヨリ直接ニ臨時派遣隊司令官ニ命令スル
コトヲ得

五 外交ニ関スル事項ニ就テハ京城駐劄日本公使ト相
議スルヲ要ス

六 咸鏡道方面ニ對シ特ニ警戒スルヲ要ス

0045

田村

華那生如珍字表
 一
 尔那生如珍字表
 共一廿三共二
 古月一送字向

宣統元年二月廿一日

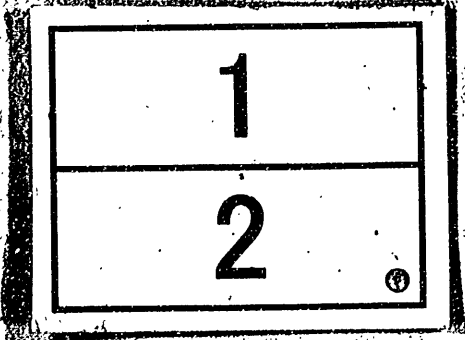
杭州外灘

我今安在哉

大木營

0046

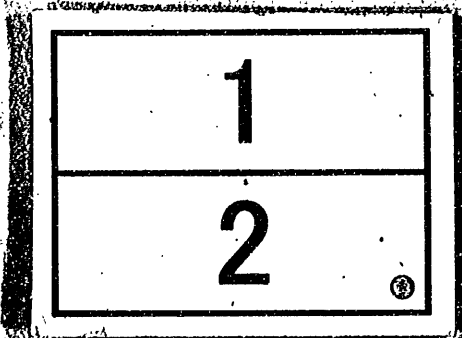
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

上
陸

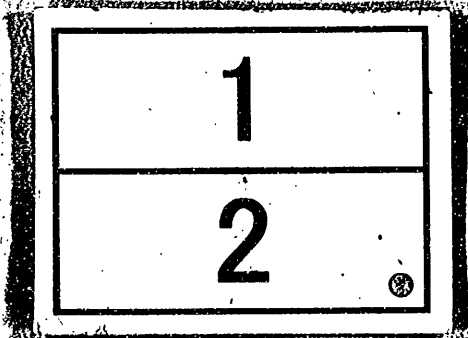
0047
0048

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

丹波	和泉	赤連	十観音	乃比乃	十観音	武藏野	東洋	阿波	土洋	娘順
六二九	三二九	二七六	二四七	三八九	二一〇	二九七八	二五九六	六三〇九	二一六六	四八〇五
一三	二	一	一〇	一二	一〇	一〇	一〇	一二	一二	一二
步兵第十四聯隊、一中隊	第一糧食縱列(手帳列、一小隊)	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊	步兵第十四聯隊、一中隊
二二二	一八七	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
六二二	七二六	五二五	三二五	九七二	二二〇	一九七	一九三	二二二	二二二	七九八
一八一	七二	七〇	七〇	二九	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
一八二	一四四	七〇	七六	一六〇	二二三	一八五	一七六	八九	一〇四	四四
右全	右全	右全	右全	崎長	右全	右全	右全	右全	右全	司門
右全	右全	右全	右全	同五	右全	右全	右全	右全	右全	日三十
右全	右全	右全	右全	日八十	右全	右全	右全	右全	右全	日六十
右全	司門	崎長	右全	右全	右全	右全	右全	司門	崎長	司門
二一三	二四九	七七		二九四		二二一	二二〇	二三七		一五六

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



船舶輸送配船豫定表

上陸地仁川

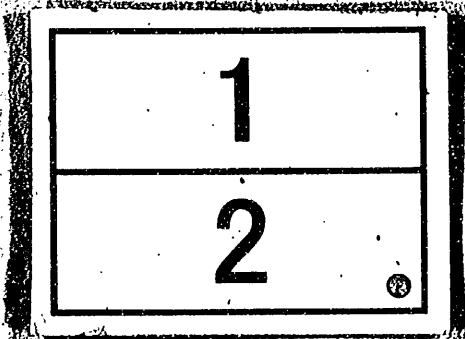
其二

船名	総噸数	速力	隊	人員	食費計	馬匹	計	乗組地	乗組員	上陸	備考
信濃	六、三八七	一二	歩兵第四十七聯隊本部及一大隊 歩兵第四十七聯隊先遣大隊、残部(三百人)	九八二	二九〇	七六	一四三	長崎	二月十六日	仁川	一九八
神威	二、二三九	八	歩兵第四十七聯隊本部及一中隊 衛生隊本部、本部	三〇三	五八一	七〇	九九	左	仁川	仁川	
孟買	四、六二四	一〇	歩兵第四十七聯隊先遣大隊、残部、一部 第一糧食隊(二十隊)	二〇〇	五七七	一七五	一七六	左	仁川	仁川	
臺灣	二、三九一	九	擔架方二中隊 歩兵第四十七聯隊、二中隊 第一糧食隊、一小隊	一八七	五二九	七七	七七	左	仁川	仁川	
鎌倉	六、二二四	一二	歩兵第四十三旅団司令部 歩兵第四十四聯隊本部及一大隊 歩兵第四十四聯隊、一中隊	九八一	二二二	七六	八七	左	仁川	仁川	二五七
神州	二、九〇五	九	歩兵第四十四聯隊本部及二中隊 第一糧食隊本部及一小隊(半隊、半隊)	五二五	六四三	七〇	一七五	左	仁川	仁川	
大連	二、九二七	一〇	第一糧食隊、一小隊 歩兵第四十四聯隊先遣大隊、残部	四〇九	四九四	七七	一四四	左	仁川	仁川	
二親	二、五六三	一〇	歩兵第四十四聯隊、一中隊 第一糧食隊、一小隊	二二二	三六八	七七	一〇二	左	仁川	仁川	
宋城	二、九〇六	九	野戰砲兵方十二聯隊本部 第一野戰病院本部	五〇七	五〇七	三一	三一	左	仁川	仁川	
萬國	二、三三九	九	野戰砲兵方十二聯隊本部 野戰砲兵方十二聯隊本部及一中隊	二四九	五〇七	三一	三一	左	仁川	仁川	

0051
0052

[illegible]

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

船舶輸送配船豫定表

上陸地 仁川 第三

船名	總噸數	連方	隊	人員	合計	馬匹	馬具	車	車具	其他	備註
武藏野	六九七八	一	架橋組列(多摩大)	三八一	三八一	二二	長崎	全右	全右	全右	機銃
常陸	六二七二	二	編重兵大隊本部及第三種金庫組列 第三野戰病院	四二五	四二五	五〇	門司	全右	全右	全右	
旅順	四八〇五	二	彈藥大隊本部 第一歩兵彈藥組列(手組列欠)	一八二	一八二	一〇	全右	全右	全右	全右	
東洋	六五五六	一	第一砲兵彈藥組列 第一砲兵彈藥組列	二四一	二四一	一〇	全右	全右	全右	全右	
阿波	六三〇九	二	第一砲兵彈藥組列(手組列欠) 野戰電信隊	二四一	二四一	一〇	全右	全右	全右	全右	
和泉	六三〇九	二	第一砲兵彈藥組列 第一砲兵彈藥組列	二四一	二四一	一〇	全右	全右	全右	全右	
乃比	五八六九	二	第一砲兵彈藥組列(手組列欠) 第三砲兵彈藥組列	二四一	二四一	一〇	全右	全右	全右	全右	
丹波	六二九〇	二	第一砲兵彈藥組列(手組列欠) 馬廠	二四一	二四一	一〇	全右	全右	全右	全右	
土浦	二二二九	九	工兵第六大隊(一中隊欠) 工兵第六大隊(一中隊)	二五二	二五二	七	長崎	全右	全右	全右	
幸運	二八七六	一	工兵第六大隊(一中隊欠)	二五二	二五二	七	長崎	全右	全右	全右	
土浦	二二二九	九	工兵第六大隊(一中隊欠) 工兵第六大隊(一中隊)	二五二	二五二	七	長崎	全右	全右	全右	
野戰兵器廠				五八	五八						

0053
0054

送

高雄艦長宛



軍令部長

電報(密)

本(第)一師團長(後備隊)又函報(函達)
(中)標(老)調(長)事(命)令(中)々(貴)友(共)航
路(保)安(ニ)シテ(必)要(ノ)注)意(ヲ)要(向)ノ(事)ニ(ハ)シ

訓令

別紙一通高橋艦長・直接命令ニ此方

ミ

軍令部長

持渡

日

0055

(安印印行)

8/1

4/1

0056

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

伊五

二十一日午後三時

第百一十師團



第十二師團、仁川上陸、上陸後、変更シ、已ニ十日ヨリ其輸送ヲ始メ、未ダ二十一日迄ニ上陸結了ノ豫定ナリ、此輸送ハ我艦隊戰勝ノ威力敵ヲ其根柢ニ壓迫セル時域ヲ利用シ、爲シ遂ケシトリ、期スルモノニシテ多少ノ危険ニ顧ミサルノ方針ナリ

瓜生司令官

軍令部長

0057

（安政印行）

0058

皇朝國令七條
北條之申候
通候所、
主事、
（山口即行）

海
軍

0060

大本
参通第一八八號第

明治三十七年三月十日



参謀總長侯爵大山 巖



海軍少将子孝侯爵東祐亨殿

鎮南海解氷、都令宜之、依、明、
日、
葉、船、如、帆、也、こ、ノ、可、案、乃、有、部、
少

大本
管

0061

秘

海軍

運送船大船... 次ノ輸送ヲ待テ... 矣事申上

上

財部

財部中依託

(正印紙、紅毛、白、黒)

0063

極

軍令部長



海軍大臣

樺

次長



作

6/4

案

陸

遠江丸

空

愛国丸

空

空知丸

空

江戸丸

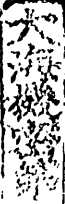
空

竹浦丸

空

小樽丸

島根県庁 函 航 七 三 日 鎮守府 司令官



七

三

日

官

0064

紫山文ハ、指押リ受ケシツラニ度此段及拜
照會也

丹波信長

部長

印刷行

0065

秘

軍令部長



次長



作戰班



海軍大臣

有

海軍軍事總監



海軍軍務部



海軍大臣副官



大海機第

九三號

大山參謀總長、協議案

三十七年四月九日

發送済

軍令部長

基隆臨時敷設隊、兵器需品、主要部分及
之レカ監理ニ必要ナル人負ヲ残シ佐世保鎮守
府ニ復歸セシメ度又紀伊國男良谷ニ分派
シアル吳水雷團ノ一部モ原所屬ニ復歸セシ
メ度此段及協議案也

0066

安部印

0067

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

軍本部
海軍大臣

次長

作戰班

以下海軍大臣
海軍大臣

伊地知由良戰時指揮官命令(電報)

三十七年四月廿日

發送済

軍令部長

紀伊國男良谷ニ分派シアル吳水雷團ノ一部ハ原所屬ニ
復歸セシムヘシ其輸送ニ關シテハ柴山吳鎮守府司
令長官ニ^{報議}相談スヘシ

發送済

柴山吳鎮守府司令長官命令(電報)

三十七年四月廿日

軍令部長

0068

紀伊國男良谷ニ分派シタル吳水雷團ノ一部ヲ原
所屬ニ復歸セシムヘキ旨伊地知由良戰時指揮官
ハ命令セリ貴官ハ伊地知由良戰時指揮官ト
議シ該部隊ノ輸送ヲ取計フヘシ

野間基隆戰時指揮官命令

(電報)

明治三十四年四月廿四日

軍令部長

基隆臨時敷設隊ハ兵器需品ハ重要部隊及
之ヲ監視必キ要ナル人員ヲ殘シ佐世保鎮守府
歸復歸セシ其輸送ニ関スルハ佐世保鎮守府
鎮守府司令長官ニ命令セリ敷設隊ノ殘部ハ
之ヲ馬公要港部隊ニ引継クヘシ

0069

○
敷島佐世保鎮守府司令長官、命令(電報) 三十七年四月廿日

軍令部長

基隆臨時敷設隊ハ兵器需品ノ主要部分及ヒ
之カ監理ニ必要ナル人員ヲ殘シ佐世保鎮守府
ニ復歸セシメ殘部ハ之ヲ馬公要港部ニ引繼
ヘキ旨野間基隆戰時指揮官、命令セリ貴
官ハ該部隊ノ輸送ヲ取計フヘシ

發送済

大山參謀總長一通牒 三十七年四月廿日

大海機密 九三號三 軍令部長

別紙、通り命令相成至条此段及通牒至也

(別紙、野間基隆戰時指揮官、伊地知由良戰時指揮官、)

命令)

發送済

0070

兎玉臺灣総督へ通報(電報)

三十七年四月廿日

發送済

軍令部長

別紙ノ通り野間基隆戦時指揮官へ命令セリ

(別紙ノ野間基隆戦時指揮官へ命令)

發送済

尾本馬公要港部司令官へ命令(電報)

三十七年四月廿日

別紙ノ通り野間基隆戦時指揮官へ命令セリ貴官ハ敷設隊ノ残部ヲ継承スヘシ

(別紙ノ野間基隆戦時指揮官へ命令)

(安達印行)

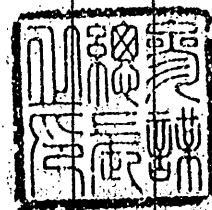
0071

大本
蘇聯第279號

明治三十七年四月十九日

參謀總長侯爵大山巖

海軍令子孝介榮祐子取



大海機密方九三平
降臨時敷設隊ハ表平ノ人負シ得シ作
世保鎮守府、復歸也シ允ノ作及他
少國男良谷、ふ旅シん号水雷團
二印シ原不属、復歸也シ允作
云存無之

大本
第九三號

大本營

0072

軍令部長

次長

作戰班



大山參謀總長、悞議案 三十七年四月廿日

發送済

大海機密

九四號

軍令部長

下関、基隆、由良、臨時派遣部隊復歸、
後、當該戰時指揮官、幕僚タル海軍參
謀ヲ解職致度、此段及悞議案也

0073

(安達印行)

0074